

# 計量分析からみる家族変動

## 近年の日本社会における格差・意識・ライフコース

田中 重人 (東北大学文学研究科)

<http://www.sal.tohoku.ac.jp/~tsigeto/qfam/101017.html>

### 1 プログラム

司会：田中 重人 (東北大学)

- 加藤 彰彦 (明治大学) 「日本の家族構造：変化・連続性・地域性」
- 西野 理子 (東洋大学) 「家族意識の変容」
- 鈴木 富美子 (淑徳大学) 「既婚女性の就業パターンとワーク・ライフ・バランス」
- 稲葉 昭英 (首都大学東京) 「非標準型家族とその経験」

### 2 開催趣旨

東北大学グローバルCOEプログラム「グローバル時代の男女共同参画と多文化共生」におけるプロジェクトのひとつ「少子高齢化社会の家族変動：マイクロデータ分析によるアプローチ」においては、現代日本における家族の変動に関する研究を、マイクロデータを使った計量的なアプローチでおこなっている。

当ワークショップは、このプロジェクトの構成メンバーを中心とした研究成果を報告し、現代日本の家族変動に関する最新のデータを共有するとともに、異なる方法論・学問分野の参加者の間で多角的な検討を加えることを目指すものである。

### 3 全国家族調査 (NFRJ) について

日本家族社会学会によっておこなわれている全国規模の調査。無作為抽出に基づく全国確率標本データを定期的に構築すること、そうしたデータを多くの研究者の公共利用に供することを目的としている。1990年代に研究がスタートし、1997年に東京でふたつの小規模な予備調査をおこなったのち、1999年1月に第1回調査 (NFRJ98) をおこなった。2004年に第2回調査 (NFRJ03)、2009年に第3回調査 (NFRJ08) をおこない、現在は第3回調査回答者の一部に対する追跡調査 (NFRJ-08Panel) を実施中である。これとは別に、女性だけを対象とした特別調査「戦後日本の家族の歩み」 (NFRJ-S01) を2002年におこなっている。いずれの調査データも、日本家族社会学会会員だけに限定した一定の利用期間ののち、東京大学社会科学研究所の運営する「SSJデータアーカイブ」を通して研究者に広く公開される (NFRJ08については来年後半に公開の予定)。

「全国家族調査」は、英語名 National Family Research of Japan の頭文字をとって“NFRJ”と呼ばれている。また、個々の調査については、それぞれの調査の対象者を抽出した名簿の編成された時点を表す数字を末尾につけて NFRJ98, NFRJ-S01, NFRJ03, NFRJ08 などの略称を使用している(ただしこの略称が固まったのは2003年3月のことであり、以前の報告書・論文などでは、NFR(あるいはNFR98など)という略称が使われていることがある)。なお、調査を実際におこなったのは年明けであるため、名簿の年とはそれぞれ1年ずれている。

NFRJ98, NFRJ03, NFRJ08 の3回の調査は、それぞれ9,400~10,500人を対象とする大規模なものである。調査票の中心をなすのは、親族との関係をそれぞれたずねた項目、家族に関する種々の出来事の実験、家族に関する意識やストレスなどを測定する心理項目などである。対象者の年齢層にあわせて、内容の一部をちがえた複数の調査票を用意した。3回の調査の間で調査項目にはかなりの入れ替えがあるが、共通の項目については、なるべく3時点間での比較可能性を確保するように調査票を作成している。

これに対して、特別調査(NFRJ-S01)は、女性だけを対象とした5,000人規模の調査であり、家族に関する出来事や経験の有無とその時期について調べることを主たる目的としている。

対象者は、住民基本台帳または選挙人名簿からの無作為抽出によって選んだ。調査法はいずれも訪問留置である。調査員が対象者自宅を訪問し、対象者を確認して回答を依頼し、後日再訪問して、記入された調査票を回収する。その際、一定の項目については、マニュアルにしたがって、調査員による点検がおこなわれる(ただしNFRJ08では、対象者が希望する場合には、封筒に密封しての回収または郵送での回収がおこなわれており、この場合は調査員による点検がはいらない)。

なお、NFRJの全体的な特徴として、一般の社会調査に比較して対象者年齢が高めに設定されていること、また無配偶者の回収率が低いと見られることに留意されたい。

詳細は、全国家族調査のWWWサイト <http://www.wdc-jp.com/jsfs/committee/contents/> と各調査の報告書のほか、下記の文献を参照されたい。

[NFRJ98 について] 渡辺秀樹・稲葉昭英・嶋崎尚子(編). 2004『現代家族の構造と変容』東京大学出版会。

[NFRJ-S01 について] 松田(熊谷)苑子(編). 2003『全国調査「戦後日本の家族の歩み」(NFRJ-S01)』日本家族社会学会全国家族調査(NFRJ)委員会。

[NFRJ03 について] 藤見純子・西野理子(編). 2009『現代日本人の家族: NFRJからみたその姿』有斐閣。

[NFRJ08 について] 日本家族社会学会全国家族調査委員会. 2010『第3回家族についての全国調査(NFRJ08): 第1次報告書』。

**表 1 全国家族調査 (家族についての全国調査: NFRJ98, NFRJ03, NFRJ08) の概要**

	第 1 回 (NFRJ98)	第 2 回 (NFRJ03)
対象	1921～1970 年生まれの男女	1926～1975 年生まれの男女
標本抽出法	層化 2 段無作為抽出法	
層化基準	都道府県×都市規模 性別×年齢	都道府県×都市規模
第 1 次抽出	国勢調査基本単位区を確率比例抽出	
第 2 次抽出	住民基本台帳または選挙人名簿から等間隔抽出	
標本規模	10,500 人 (回収 6985 人, 回収率 66.5%)	10,000 人 (回収 6,302, 回収率 63.0%)
調査法	訪問留置法	
実査時期	1999 年 1 月～2 月	2004 年 1 月～2 月
調査票	2 種類 (1921～1940 年生, 1941～1970 年生)	2 種類 (1926～1955 年生, 1956～1975 年生)
データ公開	東京大学「SSJ データアーカイブ」に寄託。	

	第 3 回 (NFRJ08)
対象	1931～1975 年生まれの男女
標本抽出法	層化 2 段無作為抽出法
層化基準	都道府県×都市規模
第 1 次抽出	国勢調査基本単位区を確率比例抽出
第 2 次抽出	住民基本台帳から等間隔抽出
標本規模	9,400 人 (回収 5203 人, 回収率 55.4%)
調査法	訪問留置法
実査時期	2009 年 1 月～2 月
調査票	3 種類 (1936～1945 年生, 1946～1960 年生, 1961～1980 年生)
データ公開	2011 年に東京大学「SSJ データアーカイブ」に寄託予定

**表 2 特別調査「戦後日本の家族の歩み」(NFRJ-S01) の概要**

対象	1920～1969 年生まれの女性
標本抽出法	層化 2 段無作為抽出法
層化基準	都道府県×都市規模
第 1 次抽出	平成 7 年国勢調査区を確率比例抽出
第 2 次抽出	住民基本台帳または選挙人名簿から等間隔抽出
標本規模	5000 人 (回収 3,475 人, 回収率 69.5%)
調査法	訪問留置法
実査時期	2002 年 1 月～3 月
データ公開	東京大学「SSJ データアーカイブ」に寄託。